

りました。昔の人たちの「強さ」を感じ取ることができる遺跡です。

しかし、昔の人は、広い田んぼを求めて、水害に負けず、低い場所でも住んでいくことがわか

り通していない場所と考えられています。この遺跡があるあたりは、北野校区でも一番低い土地であり、人が住むためにはあま

り適していません。弥生時代中ごろの集落跡や墓地で、多くの家の跡がみつかる

北大手木遺跡・彼坪遺跡
きたおおてぎ いせき かなこほいせき

で弥生時代の遺跡がみつかったことはなく、新たな遺跡がみつかる可能性が考えられます。

せんとして、遺物はほとんど出土していませんでしたが、ミノの剥片3点が出土しました。この周辺



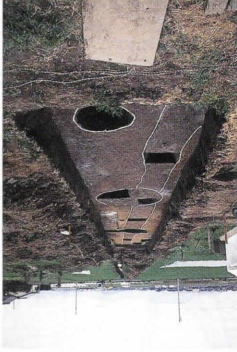
遺物が出土していないため時期を確定することができま

か行われました。その糸里制に伴う水田と考えられますが、

ました。古代に、糸里制という大規模な農業基盤整備事業

造出集落の中にあります。近世の水田跡や溝がみつかり

中厨子田遺跡
なかぢしでんいせき



があります。

様子はみつかりませんでした。むしろ、ここには、今の陣屋集落の原型

の結果、中世～近世の井戸や土坑、溝がみつかりました。陣がおかれた

遺跡の近くにあるため、戦国時代の遺跡と考えられています。調査

吉田んぼから甲冑や刀が出土した、といわれる場所です。陣屋出

茶屋敷遺跡
ちややしきいせき

で、このあたりに役場のよう施設があった可能性が新たに考えられています。

書かれた土器がみつかりました。9世紀のお皿です。この時代、文字は役人だけが使えたもの

建物や井戸、溝がみつかりました。戦国時代のものでありませんでした。しかし、「次成」と

いわれています。陣屋敷遺跡は、陣屋集落の西側にある平安時代～鎌倉時代の集落跡です。

「陣屋」という地名は、戦国時代、戦のための陣がおかれたからそう呼ばれるようになった

陣屋敷遺跡
じんやどういせき

の途中に建っていましたが、昭和のはじめ頃現在の場所に移されました。

北野天満宮の大樟
おおぐす

根元周囲は22.0m、枝張り東へ11.0m、樹高17.5mを測ります。その大きさにも圧倒され

ますが、特に根元のふくらみ方がめずらしく、地上2.5mより二股に分かれ、その特異性を誇っ

ています。そのため、福岡県文化財に指定されたのです。正確な樹齢は不明ですが、北野天満宮

が天喜2(1054)年に京都の北野天満宮の分社として建立されたことから考えれば、あるいは

北野天満宮建立時に植えられ、樹齢も900年近いことが推測されます。

銅製鰐口
どうせいわにぐち

北野天満宮の鰐口は、刻んである文字によれば、享祿4(1531)年、「関西路筑之後州河北野庄

天満宮」に「檀那草野中務少輔藤原朝臣親永」が奉納し、「灰塚左馬助秀家」が製造したものとな

っています。

北野天満神社神幸行事
きたのてんまんじんじやしんこうぎようじ

毎年10月の第3日曜日(本来は10月19日)に

催されるお祭りです。御神幸はお神輿を中心と

して、風流を先頭に、稚児行列、大名行列が続ぎ、

行司、幣指、流鏑馬など、200人ほどの氏子をお

供に従え、下宮(御旅所)までの参道1.6キロを

往復します。

以前はおくちの日になると、境内や参道に

おみやげ品や日用品、農作業用品などのお店が

軒を連ね、多くの参拝者や見物人でにぎわいま

した。この情景は、江戸時代この参道が参勤交

代に使われた薩摩坊ノ津街道であったこと、また

北野町が天満宮の門前町として発展してきた

ことを物語っています。



弓削・北野校区の歴史年表

時代	西暦	弓削・北野校区のできごと	日本のできごと
縄文	10,000	土器や弓矢を使い始める	日本列島がほぼできあがる
弥生	300	●各地に集落がつけられる	稲作が伝わる
	紀元前	北大手木・彼坪遺跡	
生	紀元後	鳥巢遺跡、十郎丸長谷古遺跡	倭国大乱
	300	今山向才ノ木遺跡	卑弥呼が邪馬台国を治める
古墳	500	大島遺跡	古墳が造られ始める
	527	筑紫君磐井の乱	筑紫君磐井の乱
奈良	645	大化の改新	大化の改新
	663	白村江の戦いで大敗北	白村江の戦いで大敗北
良	679	筑紫大地震	筑紫大地震
	710	平城京に都をつくる	平城京に都をつくる
平安	794	平安京に都を移す	平安京に都を移す
	800	陣屋敷遺跡	陣屋敷遺跡
安	1200	●北野天満宮がつけられる	●北野天満宮がつけられる
	1274	●神代の渡しに浮橋が掛けられる	●神代の渡しに浮橋が掛けられる
鎌倉	1359	●大原合戦	●大原合戦
	1467	●心仁の乱	●心仁の乱
室町	1500	茶屋敷遺跡	豊臣秀吉の天下統一
	1603	江戸幕府の成立	江戸幕府の成立
江戸	1712	●丸島堰がつけられる	●丸島堰がつけられる
	1868	明治維新	明治維新

遺跡一覧表

遺跡名	遺跡の時代	遺跡の概要
黒岩家のモチノキ		正確には「クロガネモチ」といい、樹齢は400年くらいが推定されています。
鳥巢遺跡	弥生	甕棺が出土したと伝わる場所です。現在、その甕棺はどこに行ったのか？わかりません。
十郎丸長谷古遺跡	弥生	甕棺墓の遺跡です。本格的な調査はしていませんので、今もこの地に眠ったままです。
薩摩坊ノ津街道	平安～	北野天満宮の参道であり、九州の縦の動脈でもあります。江戸時代には参勤交代にも使われていました。
北野天満宮下宮		おくちの時に使われる、別名「御旅所」。お祭りの際に天神様をお連れする仮宮。
神代の渡し		筑後川の渡し場のひとつ。今の神代橋あたり。鎌倉時代のおわり、「神代の浮橋」の話が残っています。
鯨久保水神社	江戸	中島集落の南側に小さな祠があります。江戸時代中頃、筑後川の放水路を掘った功労者達を祭った神社です。
大島遺跡	古墳	古墳時代おわりの集落跡です。住居跡や土坑がみつかっています。
今山堂屋敷遺跡		溝や小穴がみつかりましたが、時代を示すものがなかったので、未だに詳しいことがわかっていません。でも、「堂屋敷」という地名から、なにかの屋敷跡である可能性が考えられます。
今山向才ノ木遺跡	古墳	古墳時代はじめの集落跡です。関西地方の土器がみつかっています。